

## 0.1 分布型雨量モジュール

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目		内容
1	DLL 名		McDistributedRain. DLL
2	概要		雨量データのメッシュサイズを変更する。
3	送受信のパターン	受信	①降雨量 伝送仕様：2次元時系列 セル内変数：SCALOR_RAIN_FALL (mm/h)
		送信	①降雨量 伝送仕様：2次元時系列 セル内変数：SCALOR_RAIN_FALL (mm/h)
4	接続方法	受信	・要素接続は、2次元時系列で行い、降雨量を入力する。 ・上記以外の接続は、できません。
		送信	・要素接続は、2次元時系列で行い、降雨量が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式		メッシュサイズ変換プログラム
6	備考		・出力間隔は入力雨量時系列の時間間隔と同等か割り切れる値を入力する。
7	サンプルプロジェクト		・分布型雨量モジュール. prjdb

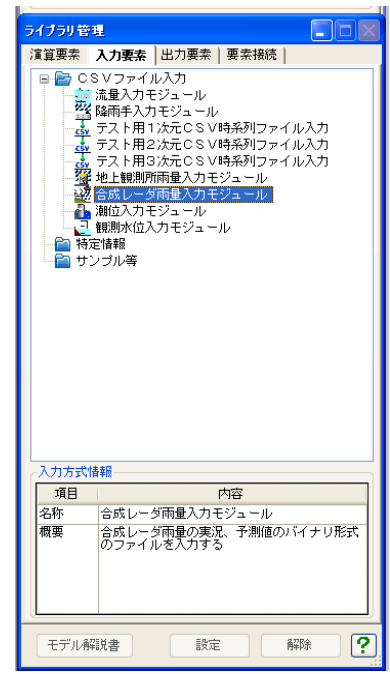
## (1) 降雨量パターンの場合

### 1) モデル接続

モデルの接続方法を、以下に示す。

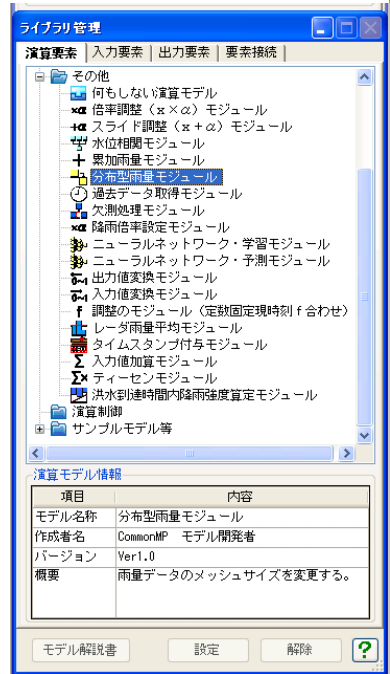
①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

カテゴリーが入力要素の合成レーダ雨量入力モデルを設定



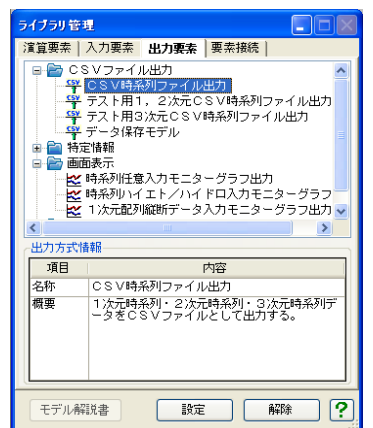
項目	内容
名称	合成レーダ雨量入力モジュール
概要	合成レーダ雨量の実況・予測値のバイナリ形式のファイルを入力する

カテゴリーが演算要素の分布型雨量モデルを設定




項目	内容
モデル名称	分布型雨量モジュール
作成者名	CommonMP モデル開発者
バージョン	Ver1.0
概要	雨量データのメッシュサイズを変更する。

カテゴリーが出力要素のCSV時系列ファイル出力モデルを設定



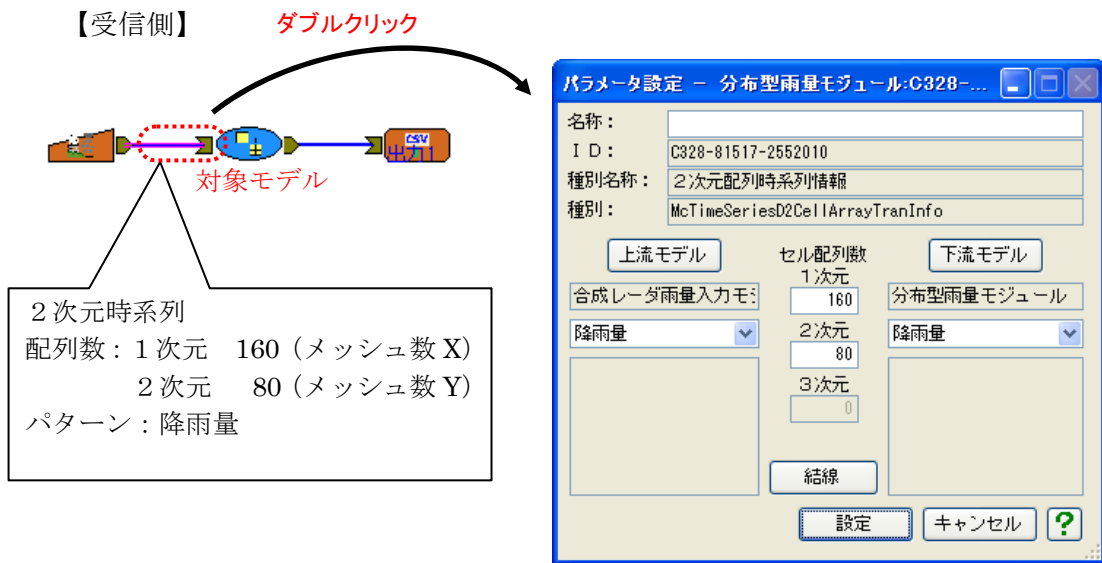
項目	内容
名称	CSV時系列ファイル出力
概要	1次元時系列・2次元時系列・3次元時系列データをCSVファイルとして出力する。



対象モデル

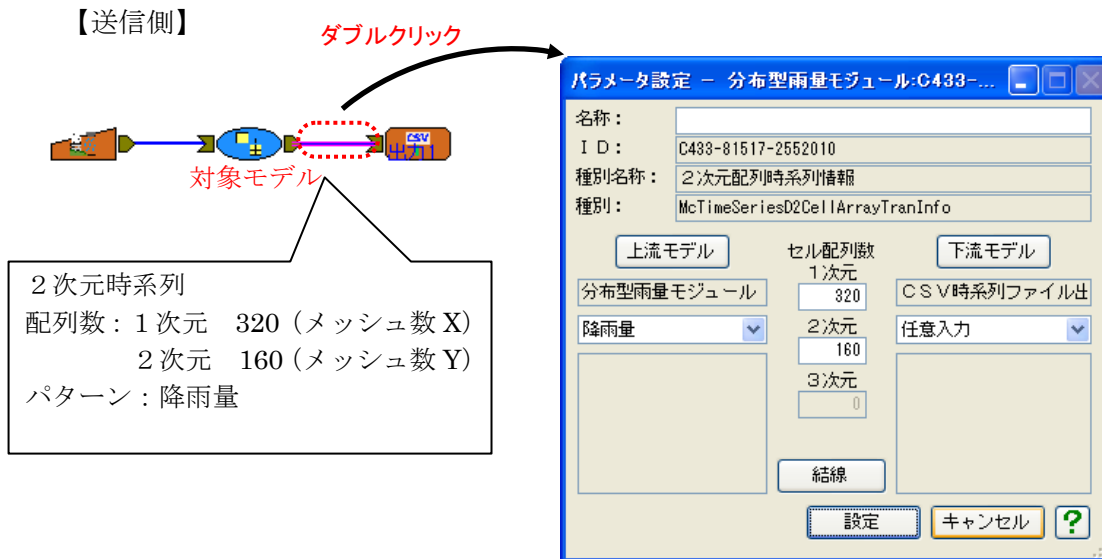
図.1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う。

図.2 要素接続（受信側）

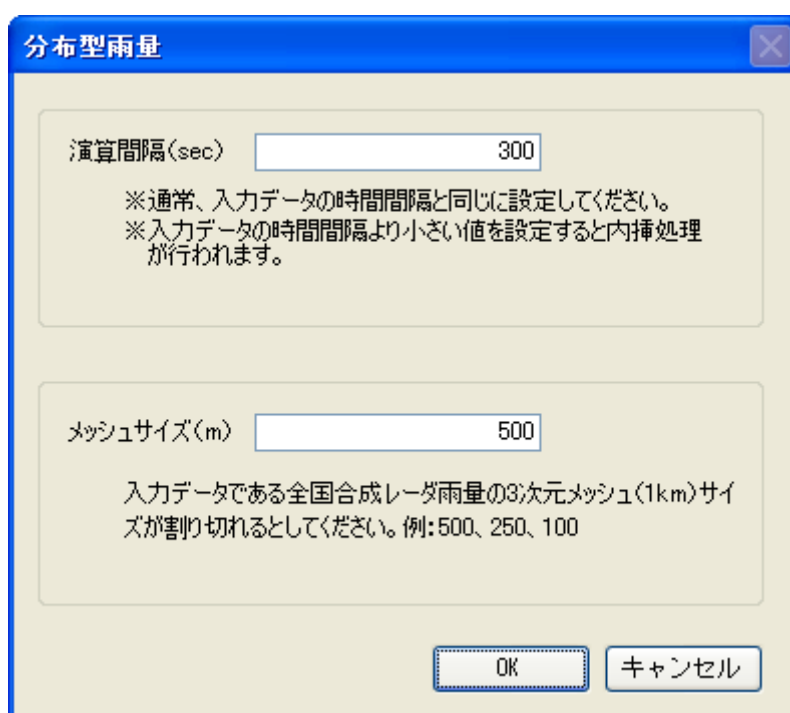


※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う。

※セル最大配列数は「CommonMP.cfg」ファイルで変更可能。

図.3 要素接続（送信側）

## 2) パラメータ設定画面



分布型雨量

演算間隔(sec)

※通常、入力データの時間間隔と同じに設定してください。  
※入力データの時間間隔より小さい値を設定すると内挿処理が行われます。

メッシュサイズ(m)

入力データである全国合成レーダ雨量の3次元メッシュ(1km)サイズが割り切れるとしてください。例: 500、250、100

OK キャンセル

図.4 個別 GUI レイアウト図 (分布型雨量モジュール)

### 3) 入力データ

2次元時系列の雨量データを入力する。

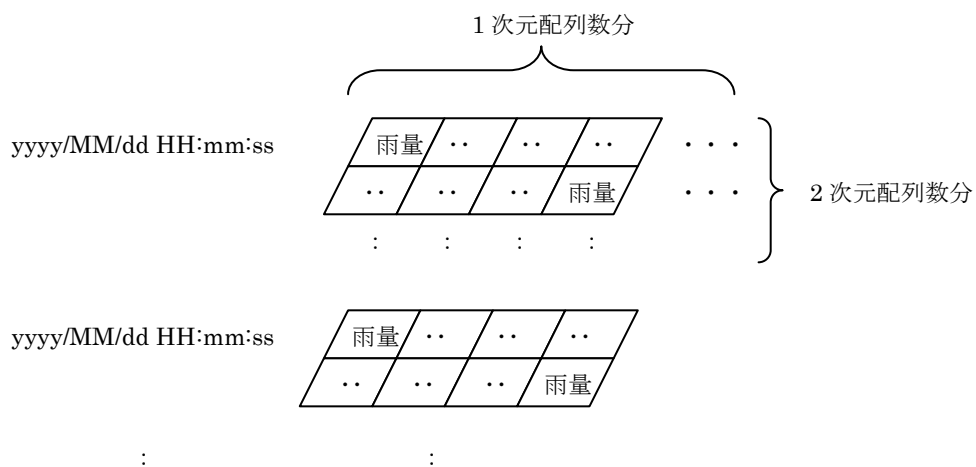


図.5 入力データフォーマット

### 4) 出力データ

2次元時系列の雨量データが出力される。

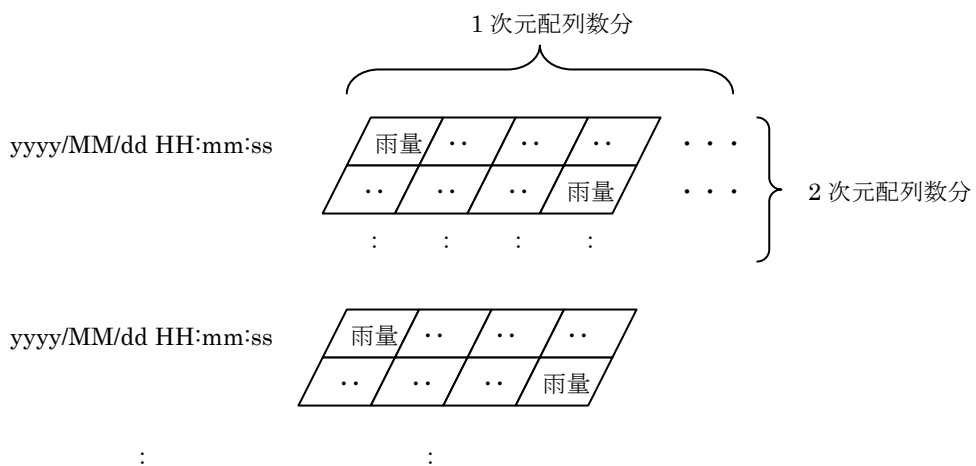


図.6 伝送データイメージ